

平成 26 年 12 月 18 日

## 太平洋クロマグロ 2014 年生まれ加入量モニタリング速報(2014 年 12 月)について

(取りまとめ機関)

独立行政法人水産総合研究センター

(参画機関)

水産庁

神奈川県水産技術センター

静岡県水産技術研究所

三重県水産研究所

和歌山県水産試験場

島根県水産技術センター

高知県水産試験場

宮崎県水産試験場

鹿児島県水産技術開発センター

長崎県総合水産試験場

### はじめに

平成 26 年 12 月 18 日に水産庁ホームページにおいて、太平洋クロマグロ 2014 年生まれ加入量モニタリング速報(2014 年 12 月)が公表されました<sup>1</sup>。本紙では、速報に用いたデータについて説明いたします。

太平洋クロマグロの産卵は、南西諸島海域では 4 月下旬～7 月上旬に八重山諸島～沖縄本島で行われ、日本海では主として 7 月に隠岐諸島～能登半島で行われると推定されています<sup>2</sup>。南西諸島海域で生まれた 0 歳魚は、7 月以降に西日本の太平洋側の沿岸域や長崎県五島及び対馬の周辺に来遊し、曳縄によって養殖種苗の用途として漁獲されます。また、日本海生まれの 0 歳魚は 10 月以降に島根県隠岐諸島周辺に来遊し、曳縄によって養殖種苗として漁獲されます(図 1)。

平成 26 年 12 月 18 日に公表した太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報では、

- ① 7～9 月の西日本における曳き縄漁船による養殖種苗採捕尾数
- ② 資源評価による加入量推定値

島根県隠岐諸島における曳縄モニタリング船の 9～11 月の採捕状況に基づき分析しております。

①は南西諸島海域生まれの加入水準、②は南西諸島海域生まれと日本海生まれの両方を含む 0 歳魚全体の加入量、③は日本海生まれの加入水準を表します。また、主要県からの夏期における

<sup>1</sup> <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/141218.html>

<sup>2</sup> <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/pdf/tenpfail140514.pdf>

0歳魚の漁獲状況の聞き取り調査の結果を参考情報といたしました。

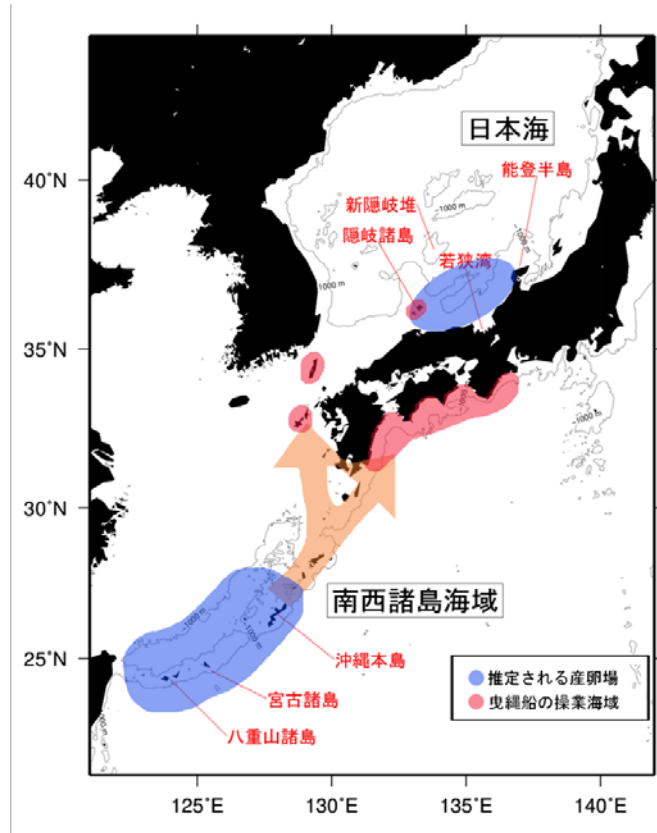


図1 太平洋クロマグロの産卵場と曳縄による養殖種苗採捕の漁場。

### ① 7～9月の西日本における曳き縄漁船による養殖種苗採捕尾数

2008～2014年の7～9月における太平洋クロマグロ0歳魚の養殖種苗採捕尾数を以下の3種類のデータを用いて推定し、南西諸島海域生まれの加入水準としました。

- ◆ 水産庁による沿岸クロマグロ漁業の実態把握調査(2008～2010年)
- ◆ 全国のクロマグロ養殖業者からの養殖実績報告(2011～2013年)
- ◆ 沿岸承認船による漁獲成績報告(2014年)

※ ( )内は、該当するデータを使った年。

### ② 資源評価による加入量推定値

平成26年2月に北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC) が行った、太平洋クロマグロの資源評価による加入量推定値を示します(図2)。その結果から、2012年の加入量は、過去61年(1952～2012年)の中で下位8位と低い水準でした。また、直近5年間(2008～2012年)の平均加入量は、歴史的平均値よりも低いことがわかりました。

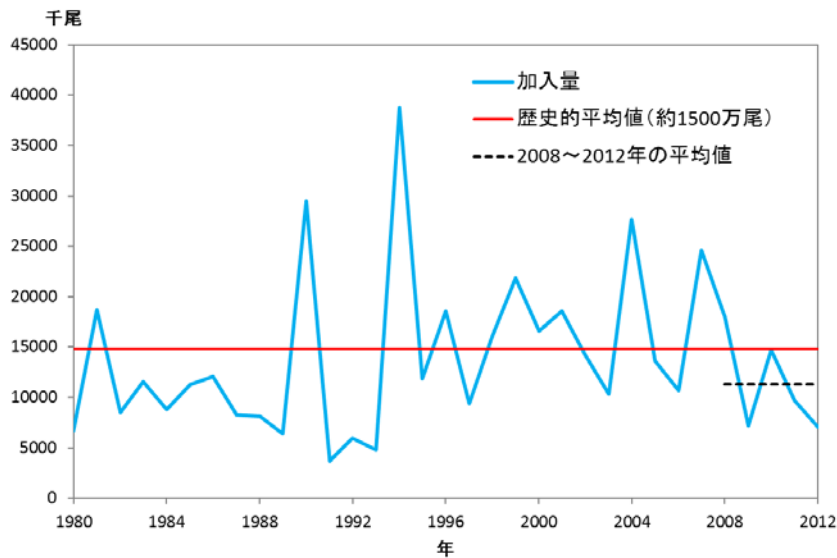


図2 資源評価による1980～2012年の加入量推定値.

### ③ 島根県隠岐諸島における曳縄モニタリング船の9～11月の採捕状況

太平洋クロマグロ0才魚の加入量の早期把握を目的として、水産総合研究センター、高知県水産試験場及び長崎県総合水産試験場により、平成23年より高知県及び長崎県の計24隻の曳縄漁船をモニタリング船として、本調査を開始しました。平成25年に島根県水産技術センター、平成26年より三重県水産研究所、和歌山県水産試験場及び宮崎県水産試験場が本調査に参画しました。今年度より本調査は、計61隻のモニタリング船による調査体制となり、西日本(太平洋南、九州西、日本海西)の広範な水域をカバーしています(図3)。本調査では、各モニタリング船に陸上と通信可能なデータロガーを設置し、位置情報、漁獲情報及び水温情報を記録します。記録したデータは、電子メールにより陸上にリアルタイムに送信されます。

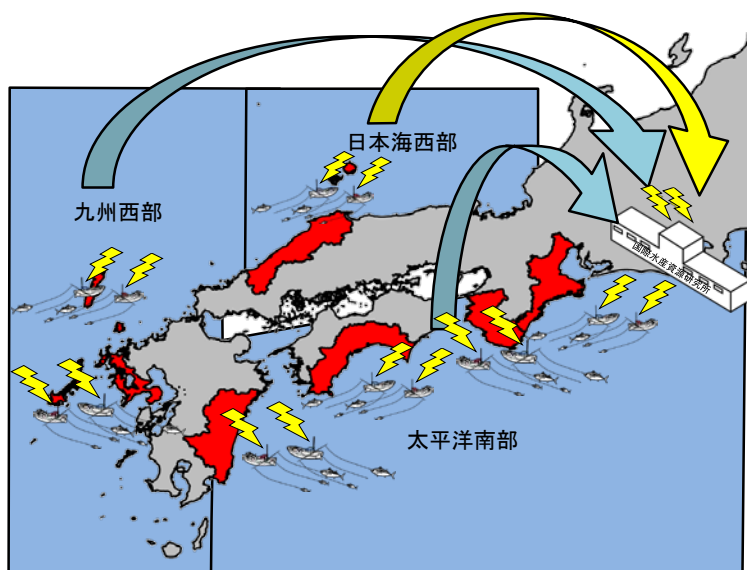


図3 曳縄モニタリング船調査におけるデータ収集の模式図.

今回の太平洋クロマグロ2014年生まれ加入量モニタリング速報は、平成26年9月1日～11月30日までに島根県隠岐諸島に設定した曳縄モニタリング船で収集した操業・漁獲データを元に、1日・1隻当たりの漁獲尾数としてCPUEを求め、隠岐諸島における同調査を開始した2013年を1とした時の相対値として推定し、日本海生まれの加入水準として示しました。

### 【参考情報】 夏期における0歳魚の漁獲状況の聞き取り調査

日本周辺国際魚類資源調査の参画県で太平洋南部ブロック及び九州西部ブロックに含まれる神奈川県、静岡県、三重県、和歌山県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び長崎県を対象に夏期の0歳魚の漁獲状況の聞き取りを行っています。神奈川県を除くすべての県では、0歳魚は養殖種苗の用途で漁獲され、神奈川県では食用で漁獲されます。2014年では、聞き取りを行ったすべての県が漁獲状況は悪いと回答しました(表1)。

表1 0歳魚の漁獲状況の聞き取り調査の結果。

県、地区	漁期	漁況						
		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
神奈川	8月下旬～9月			悪い	やや悪い	やや良い	たいへん悪い	たいへん悪い
静岡	7月下旬～8月		良い	悪い	普通	悪い	悪い	たいへん悪い
三重	7月中旬～8月中旬			やや悪い	良い	悪い	悪い	たいへん悪い
和歌山	7月中旬～8月中旬	普通	良い	悪い	良い	たいへん悪い	悪い	たいへん悪い
高知	7月中旬～8月中旬	良い	悪い	良い	悪い	たいへん悪い	悪い	たいへん悪い
宮崎	7月中旬～8月中旬				普通	悪い	普通	やや悪い
鹿児島	8月中旬～9月中旬	やや良い	たいへん悪い	やや良い	良い	たいへん悪い	たいへん悪い	たいへん悪い
五島(長崎)	7月下旬～8月初旬			やや悪い	良い	たいへん悪い	やや悪い	悪い
対馬(長崎)	8月上旬～9月初旬			やや悪い	やや悪い	たいへん悪い	やや悪い	悪い